

更新ニュース 2020

2020年8月公開



日本統計年鑑 令和2年版

【日本統計協会】

2019年に搭載された『日本統計年鑑』の新年度版が追加となりました。日本の国土、人口、経済、社会、文化などの広範な分野にわたる基本的な統計データを、網羅的かつ体系的に収録したものです。統計表はすべて Excel ファイルのダウンロードが可能です。全巻英文併記なので、日本語・英語それぞれのキーワードから検索ができます。

2020年7月公開



日本国勢図会 2019/20

【矢野恒太記念会】

1927（昭和2）年の創刊以来、日本の経済・社会に関する最新データを総合的に収集した統計書として、大学・高校・学習塾の授業および入試問題、講演会、研修などに幅広く利用されている定評あるデータブック。豊富な図表をもれなく掲載し、図表タイトルの検索、出典・注釈の全文検索を可能としました。今後も最新年度版を追加搭載予定です。

2020年7月公開



岩波数学辞典 第4版

【岩波書店】

日本数学会の総力を集めて数学諸分野の新しい発展を取り込み、基礎から最先端までを一望する定番辞典。フェルマの定理、ポアンカレ予想の解決などの最新成果や、近年ますます広がる応用分野もカバーしています。ジャパンナレッジ版としては初となる MathJax 全面採用の数式表示で、TeX ソース出力など、各種論文作成等に活用できます。

※いずれも、中高特別パックには搭載されません。

販売総代理店 紀伊國屋書店

株式会社紀伊國屋書店 書籍・データベース営業部
〒153-8504 東京都目黒区下目黒 3-7-10
TEL: 03-6910-0518 FAX: 03-6420-1359
E-mail: online@kinokuniya.co.jp

開発・運営 NetAdvance

株式会社ネットアドバンス
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-30 昭和ビル 3F
TEL: 03-5213-0872 FAX: 03-5213-0876
E-mail: b2b@japanknowledge.com

プロに聞きました——ジャパンナレッジ活用術

翻訳の仕事に、オンライン辞書はいまや必須アイテム。数多くのデジタル辞書を駆使して英語の実務翻訳に携わり、翻訳学校の講師も務める高橋聡氏に、ジャパンナレッジの活用術を聞きました。

◆ジャパンナレッジでよく使うコンテンツ

ジャパンナレッジでは、『日本大百科全書』『世界大百科事典』や、『日本国語大辞典』をよく使います。

百科事典は、専門外のことについて概要をつかむのに便利です。電子辞書にも入っているものがありますが、画面が小さくて読みづらいので、ブラウザ・ベースのジャパンナレッジは、図版なども見やすく助かります。

国語辞典は、翻訳学校の受講生の答案を添削するとき役に立ちます。皆さんの答案には面白い日本語が続出するので、そんな日本語に出会ったら、国語辞典にあたってみます。用例として出ていればOKなのですが、出ていなかったり、「誤用である」との解説があったりすれば、「そんな言い方はしない」という拠り所となります。

また、『日本国語大辞典』と『デジタル大辞泉』の二つの国語辞典があるのもいいですね。前者は、語彙数も多く、語釈も詳しく出ています。それに対し、後者は新語を多く取り入れ、言葉の用法に強みがあります。

ジャパンナレッジでは英語の辞書が充実していますが、プロとして専門辞書を手元に取り揃えていますので、そちらの利用が中心になってしまいますね。変化の激しいIT系の専門用語の場合はネットで調べます。ただ、『プログレッシブビジネス英語辞典』は、よく使います。デジタル版はここだけですし、新語も載っているので役に立っています。

意外なところでは、最近、ある仕事でスペイン語やフランス語を確認しなければならない機会が増えていて、『西和中辞典』や『ロベール仏和大辞典』が重宝しています。さすがに英語以外の辞書は持っていないので。

◆全文検索の威力

機能面では、全文検索をよく使います。

機械翻訳に関する仕事をしていたとき、

「representativeness」という言葉に出会いました。コーパス言語学の用語で、「代表性」という意味なのですが、見出し検索で英語の辞書にあたって適切な訳語が出てきません。全文検索にすると、『日本大百科全書』の「コーパス言語学」がヒットし、そこに「代表性 (representativeness)」と書かれていました。辞書によっては説明文の中に原語も載っているので、全文検索を使うと、英語で検索しても百科事典や新語事典がヒットするんですね。これは助かります。

『羅和辞典』もときどき全文検索で使います。翻訳の際にラテン語からの引用が出てきた場合、有名でない言葉は他の辞書に載っていないケースが多いのです。ジャパンナレッジで全文検索すると、『羅和辞典』がけっこうヒットします。

◆ワンストップでいろいろな辞書を比較

ジャパンナレッジは、いろいろな辞書を一目で比較できるところも魅力です。

たとえば「ドローン」(drone)という言葉は、2015年ごろ、手持ちの辞書には載っていませんでした。それが、ジャパンナレッジでは、『日本大百科全書』『デジタル大辞泉』『イミダス』『現代用語の基礎知識』などに立項されていました。

当時は、「無人飛行機」「無人航空機」という訳とともに、軍用での利用に関する説明が主でした。『イミダス』のみが、「ホビーで利用される」ものもあることに言及しています。それが現在では、4コンテンツとも、趣味や玩具としての「ドローン」についても記述していて、時代の変遷を感じます。

また、『日本大百科全書』と『世界大百科事典』の相互リンクも便利です。著者によって個性がありますので、読み比べることによって理解を深めることができます。(談)

たかはし あきら

高橋 聡 (翻訳者・翻訳学校講師・日本翻訳連盟理事)



1961年生まれ。セキュリティやマーケティング系のブログ、ニュースを中心に活躍。訳書『機械翻訳：歴史・技術・産業』(森北出版)、共著『翻訳のレッスン』(講談社)、共訳書『インシデントレスポンス』(日経BP社)。

ブログ：「禿頭帽子屋の独語妄言」

<https://baldhatter.hatenablog.com/>